

日本あちこち河川遡行記（第 315 回）

大阪-5. 津田川（その 1）後半 令和 2 年 2 月 20 日（木）晴一時曇り

[続き]

城とお寺巡りはここまでとして本来の川に向かう。かつての海岸の防波堤の海側の広い公園の中を歩き河口に架かる橋に着く。阪神高速湾岸線の両側には府道 29 号の橋が並走している。まずは上流側の府道橋を左岸側に渡る。川は岸和田市と貝塚市の境を流れていると思っていたが河口付近は貝塚市の領域である。橋から上流側を見ると赤レンガ造りの古い紡績工場が見える。貝塚と言えば東京オリンピック最大の立役者「日紡貝塚」を思い出す。大学の寮の食堂のテレビで食い入るように見ていたなー。「金メダルポイントです！」

左岸側から反対側の府道に向くのに大変な思いをして悪戦苦闘でたどり着く。大型車が高速で走る車線を横切り歩道に。左岸側から右岸側に渡り遡行を開始する。イントロが長かったなー。



20.津田川河口に架かる府道橋と阪高湾岸線



21.橋の上流左岸側には赤レンガの紡績工場が



22.ここにたどり着くのは大変でっせ！

足元に貝塚市のマンホールが現れる。市の花コスモスが描かれ、女性的な姿をしている。東洋の魔女ならぬ泉南の乙女だ。



23.貝塚市は市花のコスモス

右岸側の市道の歩道を東に向かうと直ぐに「2」と書かれた河川距離標が立っている。河口から 200m の所で 2 と表記。今まで見て来た標識柱と形式が違ふぞ。ははーん、府の土木事務所が泉南郡に入ったので変わったのだな。帰宅して調べると、泉北は「鳳土木事務所」、泉南は「岸和田土木事務所」が管轄しているので変わったのだ。ちなみに南河内郡は「富田林土木」、中河内は「八尾」、北河内は「枚方」、三島は「茨木」、能勢は「池田」と見事に分かり易くなっている。広大な県の土木事務所では現地まで往復するだけで数時間かかるが、狭い大阪府なら 1 時間程度で往復できるだろう。



24.距離標識のスタイルが泉南に来ると違ふぞ

次の橋「岸見橋」の手前まで来ると川沿いに 3 体のお地蔵さんを祀った細長い小屋が建っている。川沿いの道で数多くのお地蔵さんとその小屋を見てきたがこれは立派な地蔵小屋である。地域の守り仏として大切に扱われているな。直ぐ隣には岸見橋の先代の石造りの親柱が 3 本保存されている。お地蔵さんと同じ 3 体が並んで地蔵仏のように見えるぞ。

「岸見橋」とは川の北側の岸和田を監視する場所に有った橋の名残かも知れない。貝塚には浄土真宗の「願泉寺」が川向こうに有り、天正 11 年「顕如」がここに移り浄土真宗の御坊として教団の本部としていた時期が有る。岸和田に対する対抗意識が強かったのかも知れない。



25.川沿いに立派な地藏堂が



26.紀州街道の「岸見橋」の旧橋の親柱が残っている

次の府道 204 号の「昭代橋」を渡り左岸側を進む。南海本線の下を潜ろうとすると難波行き特急「サザン」がやって来たのでカシャ。この特急は 8 両編成で和歌山方 4 両は 2 扉の座席指定車で難波方 4 両は 4 扉の普通座席車の混成編成である。名鉄特急も最近は同じ形態をとっている。



27.津田川橋梁を特急「サザン」が通過

川から少し離れた川沿いの道に入り進むと、対岸の浄水場に向かう扉の付いた専用橋が完成ホカホカの姿で口を開けている。市の私道橋だ。周囲に人家の無い下水処理場の入り口の橋は何度か見て来たが浄水場専用橋は初めてである。



28.貝塚市津田浄水場への私道橋

1.5車線の市道を歩いて行くと貝塚市のコミバスが通過して行く。細長い貝塚市を南海ウエストバスの路線は長手方向に有るが、横方向に進む路線が無いのでコミバスがこれを補完しているようだ。

「岩前橋」に来ると対岸に「小瀬町」のだんじり小屋が見える。貝塚にも有りませ!



29.貝塚市コミバスに出会う



30.橋の向こうに地車保管庫が

国道26号の橋はすぐ横の函渠を潜り進むことになるので斜路を上がり国道に着くと眼前に「丸亀製麺」の大看板が立っている。時刻は12時30分、寄らない選択肢は無いやろ!



31.国道橋際に有った、寄らない選択肢は無いやろ！

20分の昼を摂り坂を下り函渠を潜り遡行を再開する。久保地区の右岸側を進むと桁に蔦類が鋼桁の中央まで延びた市道橋が衰れに見える。近接目視点検時に取れなかったのだろうか？コンサルタントが点検しているという作業はしないのだろうか。

阪和線が近づいてくると線路を越える道路が無くなり、川を離れて大きく迂回する。左に曲がると保育園が現れ園児達が縄跳びのお稽古をしている。暫し見とれて声援を送る。



32.橋の点検しているのかなー



33.保育園の前を通過、可愛いね！

府道30号までやって来て「虎橋」を渡り右岸側の道に入る。府道は別名「小栗街道」と言われ、阪和線の東側を伴走している。虎橋とは凄い名前の橋だな。

貝塚市から岸和田市に入ると平地部から台地部になり、川沿いの道は無くなり古い住宅街をうろうろしながら上流に向かう。「畑橋」、「高橋」、「中央橋」とジグザグに進んで橋を見て行く。6km過ぎたあたりから右足の踵の痛みが出てきて杖を出して歩く。坂を上下しながら「流木橋」まで来ると下流の対岸には町名の元になった「極楽寺」が大きな屋根と広い墓地を従えている。地獄に極楽

が対岸に有るぞ。



34.デカイ「極楽寺」が川の向こうに、こちらは地獄だ

次の高橋を見て今日はここまでとして右岸側の坂道を登りもよりの「流木」バス停に向かう。同じ川のお互いに近い所に同じ名前の「高橋」が有るぞ。高橋と中央橋は橋名数ベスト5に入るぐらいに多い橋名である。

バス停の時刻表を見ると、道路の両側のどちらのバス停も行き先が「岸和田駅行き」になっている。この辺りのバス路線は複雑怪奇で理解するのに時間を要した。流木バス停を通る路線は「虫眼鏡」の様な路線で、柄の下の端が岸和田駅で柄とレンズとの接点の分かれ道が「土生町」となり、流木はレンズの右側の途中にある。バスは岸和田駅から東岸和田駅を経由して土生町から右回りと左回りと二つの路線に別れ、ぐるっとレンズを回り土生町から岸和田駅に向かう。

20分ほど待って左回りのバスに乗り東岸和田駅前下車。駅は2年前に高架駅となり、新築ホカホカである。入り口の上にはアンバランスな姿の屋根が乗っかっている。ははーん、だんじりの屋根をモチーフにしているな。若い駅員にそれを言うと嬉しそうに「わかりましたか！」と言う。だれかあの屋根に登りうちわも持って踊らんかいな。



35.阪和線東岸和田駅の入口の屋根はだんじりの屋根を

本日の歩行距離：8.1km。調査した橋の数：20。
総歩行距離：10,822.0km。総調査橋数：14,166。
使用した 1/25,000 地形図：「岸和田西部」（和歌山 10 号-3）、「岸和田東部」
（和歌山 10 号-1）